



久松隆翔

プロジェクトが始まるまでは指折るほどしか訪れたことなかった木更津。気がつけば大きな予定のない休みの日には毎回訪れるようになっていました。今となっては自分だけのお散歩ルートも出来ちゃいました。

木更津ウェルネスツーリズム

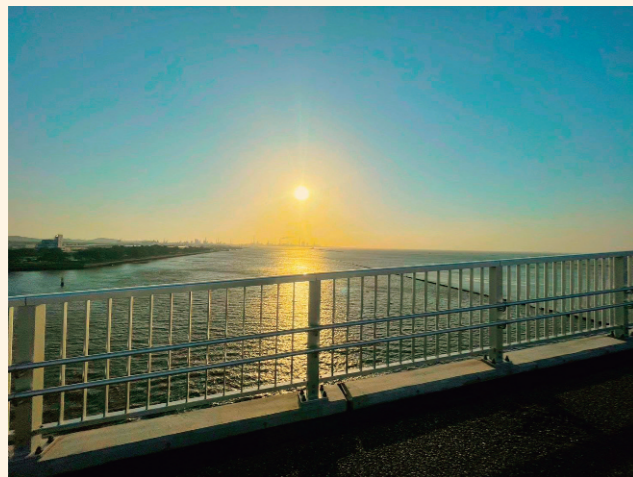


### 木更津市郷土博物館 金のすず

名前の由来はこの辺りの古墳から出土した金色の鈴。実は国内でも極めて珍しい重要文化財。木更津で生まれ育った人ならみんな校外学習で行ったことのある施設なんだろうなあ。歴史の息吹に触れた後は、太田山の頂で深呼吸をして自分を整える

### 鳥居

太田山から潮風を正面に受けここまで歩いてきた。長年航海の安全を願うシンボルであった鳥居がモニュメントとして再建されたものらしい。「金のすず」で学んだ港町としての歴史がより立体的に自分の中に落とし込まれていく



### 中の島大橋からの夕景

鳥居を後にし、レストラン「舵輪」を横目に中の島大橋へ。強い海風に吹かれながら登った頂上から、西日に染まる工場地帯を眺める。壮大な景色を前に、都会で抱えていた悩みも潮風の中にすうっと消えていった



### 太田山からの風景

博物館の静寂を抜け、「きみさらずタワー」の頂上へ。街の向こう、工場地帯と富士山の姿に息を呑む。ビル群に追われる日々を忘れ、ただ深呼吸。溜まった緊張がほどけ、明日へ向かう活力が満ちていく。この平穏な時間がたまらなく愛おしい



### 木更津駅のホーム

「證誠寺の狸囃子」がこだまする今回の旅の出発地点。都内の混雑とは無縁の、信じられないほど広々としたホームに立つ。吹き抜ける風の心地良さに、思わず大きく深呼吸。ここから始まる木更津散策に自然と高揚感が高まっていく

## 都会に疲れたあなたに 木更津ウェルネスツーリズム

「最近、深く呼吸できていますか？」そんな問いかけに応える場所が木更津にあります。海風が運ぶ静寂の中で過ごす時間は、凝り固まった心と体を軽やかにしてくれるはず。せわしない日常の中を生きている、そんな人に提案したい木更津散歩

木更津

8

都会のスピード、この街のスピード

都内で会社員として日々を駆け抜けていると、そのスピード感に時々心が追いつかなくなる。そんな時、僕はあえて「電車」に揺られることを選ぶ。JR総武線・内房線の車窓に流れる景色が、無機質なビル群からやがて穏やかな平地へと変わっていく時間は、日常を脱ぎ捨てる大切な準備時間だ。

今回の目的は「ウェルネスツーリズム」。心と体を整えて、リフレッシュしましょうというストレス社会を生きる現代人への処方箋だ。東京から約1時間半、電車の揺らぎに身を任せ、「会社員」からただの「疲れ切った26歳」に戻った僕は、いつもより広いホームに降り立つ。座りっぱなしだったせいか、自然と手足を伸ばしてしまふ。会社の最寄り駅のようなこもった空気ではなく、体の隙間をすするりと風が元氣よく通り抜けていく。

東口を出てカフェでコーヒーを買い、あけぼの通りを歩く。10分ほどで「金のすず」への標識が現れる。緩やかな坂を上った先にある、街の成り立ちや先人の営みに思いを馳せる時間は、日常の焦燥感を忘れさせ、歴史の厚みの中にみずからを溶け込ませてくれる。

博物館を抜け、側にそびえ立つ「きみさらずタワー」へ。頂上からは、都内のビル群とは違う遮るもののない大パノラマが広がる。富士山まで見渡せる景色は、デスクワークで凝り固まった僕の視界を、物理的にも精神的にも押し広げてくれるようだった。

そこから来た道を辿り、海沿いの鳥居崎海浜公園へ。八剱八幡神社ゆかりの赤い大鳥居が、潮風の中でどしどしと佇んでいる。隣接する「中の島大橋」ヘスロープを上ると、これが意外と足になる。でも、頂上で抜ける風は、ビルの隙間を吹き抜けるものとは強さも匂いも全く違った。沈みゆく太陽が工場地帯の影と海面を黄金色に染めていく。強い潮風を正面から浴び、深く呼吸をする。都会で抱えていた悩みや焦燥感は、この潮風の中に溶けていくように感じた。木更津には派手なアトラクションはない。しかし、歴史という確かな事実と、心を空っぽにできる圧倒的な余白がある。

帰りの電車、座席に深く沈み込みながら、来る時よりも体が少し軽いことに気づく。明日からまたせわしない日々が始まるかもしれない。でも、今の僕には橋の上で吸い込んだ、あの潮風の記憶がある。もし、あなたも少し疲れているのなら、一度「各停」のテンションで、この街を歩いてみてほしい。



黒木恵美

母親としての不自由さを感じながらも取材など自宅保育中の子どもを受け入れていただき、全体を通して色々な協力ののおかげでここまで走り切ることができました。改めて木更津のあたさきを感じた日々でした。



# 1人にさせない子育ての街 「木更津こどもまつり」とは？

木更津こどもまつりには子ども達の本気と頑張りを見守り、子育てを本気で考え支える大人の姿がたくさんあります。どこかつかい、「こどものために」がたくさん詰まった4時間。ここにしかない素敵なテーマパークのような時間を体験してみませんか？

## ～大人出店者 山野さんに聞きました～

**小学校の学校給食を  
無農薬米に 山野さんは  
子育てを見守ります**  
山野 長男が3歳ぐらいの時に、ご飯を残したんです。そのときそれがもったいないと思っただけ、なにがもったいないんだろ



1分おむすび店主  
山野晃弘さん

子供たちの成長の瞬間を目の当たりにできる特別な時間  
山野 うちの子が初めてこどもまつりに出店したときは、割り箸のてっぽうを作って、原則の100円以下で値段設定して売りました。でも一歩前に踏み出せず朝いちから行かないんです。でも結果的に置いてあったものが1時間も売れませんでした。そのときの満面の笑みは忘れられないですね。「売れた！やっただけ」みたいな。その誰かが買ってくれたときが成長の瞬間で、成功したという体験で、こどもまつりの中にはそういうことがちりばめられているんです。それがそが社会館の大事にしているもので、この祭りにはそれがぎゅっと詰まっています。そしてこの祭りは大人も入ってもいいよっていいことなんです。大人はそこに本気でいかなきゃいけない。まあ子どもには負けるんですけど「大人が作ったおむすびだけ」みたいな。そういうのがこどもまつりになって。

うと思っ。それを教えるためにお米作りを始めた。そして子どもを産んだ産院で「実はなくてもいいものが、世の中にいっぱいあるかもしれない」ということを知り、農薬とか添加物のことに気づいたんです。最初は目の前に田んぼがあるから鎌足小学校だけでいいと思っ。ただ、それ以外の子どもたちには田んぼの体験やお米の食育をできる場所がないんです。だから自分たちが食べるお米を知ったうえで食べることで、できればいいなと思っ。きつかけは鎌足小学校が存続の危機になったとき。もしかしたら食育に特化した小学校ができた、それに魅力を感じて移住してきたりする人がいるかもしれない。その流れでわかりやすいのが学校給食だと思っ。大人も子どももド口口になって笑いながら一緒にやっ。その結果、実はこんなにおいしいものができるっていう体験ができれば最高だと思っ。それを楽しくみんなが笑いながら食べてほしいよね。



木更津 9

「木更津こどもまつり」とは？



社会館保育園園長  
宮崎 愛子さん

多くの方は自分がやりたくてここにきていて「他人任せではなく自分ごととして助け合おう」という空気があるんです。これまで22回のこどもまつりの中で、それぞれの年代が育ちながら、この壮大な共通したイメージを守ってやれていると感じます。前園長の父は、いつも開会式で自殺のことを話すなど、いわばマイナスな話題を入れていたんです。彼はお坊さんだったので刑務所に教諭師として説法に行っていました。刑務官の方とお話をしている中で、受刑者自身が生まれてきてよかったと思えるか思えないかで社会復帰が変わって来ると。こどもまつりに来ている子どもたちも日々の暮らしの中でいろいろなことがあるって、こどもまつりが終われば普段の日常に戻らなくちゃいけない。父は人生の色々な辛い部分を体験として知ったうえで「みんな生きていくのは大変だよ、でもこの日だけはみんなで笑おうよ」ってことを、こどもまつりに込めたんだと思っ。うんですよね。

「子どもが夜寝てくれなくて」たとえばそんな子育ての悩みをみんな考え、たくさんヒントをもとに自分と子どものベストを見つけていく。その経験の中でたくさん仲間の輪ができて、苦楽をともにし、広がる輪でみんな子どもを見守り、育てていく。するといつしかネットや育児本に頼ることが減り、なにかあれば仲間がいる安心感の中で子育てが始まる。それが木更津のゆりかもめ支援センター。その母体である社会館保育園園長が主催者となり行われるこどもまつりを取り寄せていただき、園長である宮崎先生にお話を聞きました。宮崎 近年子どもがやりたくないことはやらせないっていう風潮がありますよね。でも大人が子どもに伝えなきゃいけないことは、やりたくないことの越え方を教え、実地で体験させることだと思っ。こどもまつりだって作っている過程は大変だけど、親同士のつながりで、ユーモアで乗り越える。大変なのになんか楽しくやっ。大変なのぞと。本気でがんばる大人の姿、その姿が目の前の課題の超え方のひとつを子どもに見せているんじゃないかと思っ。役割を置いて自分自身でいられる場所宮崎 この祭りでは自己発揮しているのがしっかり実現されていると思っ。と言うのも



岡本かなは

目的地に向かう移動時間を、ぜひ木更津を回る時間に。身近なものを面白がる視点があれば、道中だって立派なコンテンツになります！個人経営のお店も多い木更津、見所満載です！

木更津を、digる

Digりのヒント：  
宇留人の友人にプレゼントするとしたら？/  
色遣いのオブジェクトを探そう/  
会社の看板から、社長の名前を予測しよう！

家に持って帰って、飾りたいものは？/  
ランチョンマットにしたい柄は？/  
連続したものを探そう/  
青色のものを3つ探そう/  
看板の文字を組み合わせて  
自分の名前を作ろう

# 木更津 10 木更津を、digる

## やり方

- ① 木更津の街を散歩しながら、気になるオブジェクトを探す
- ② スマホやカメラで写真を撮る  
※お店や個人のお家など、迷惑にならないように気をつけて
- ③ 撮った写真をアルバムにまとめる
- ④ 他の街でもやってみる

あなた向けの情報、あなた向けじゃない情報、街にもスマホにも、とにかく情報過多。受動的にならざるを得ない毎日、ぐったりしちゃうよね。受動的な情報消費からの脱却の秘訣は、「dig」ること！木更津にもあなたにしかdigれない、面白いものがたくさんある。看板、道の縁石、たぬきカルチャー……この看板はどうしてこの色なんだろう？この形の煙突に惹かれるのはどうして？あなたの手で、木更津という街をdigってみてください。あなただけの光るものを見つけて、いつもの街歩きをもっと面白くしちゃおう！

## ディグる [digる] (動詞)

たくさんの中から、あなたが美しい・面白い・素敵だと思えるものを探し出すこと